

文学部 人文学科 人文学(哲学)、および、国際コース・人文学(哲学) カリキュラム・マップ

	到達目標	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
<共通>	D.(他者を尊重する公平な姿勢)先行研究と自らの学説を批判的に討論し、自らの意見をより客観的視点から組み立て、他者の意見を尊重する、市民性のある公平な姿勢で論文を作成することができる。 C-2-1.(知識・理解の深化と統合)本コース5つのそれぞれの専門分野の内容に関する深い理解と、学問固有の思考方法、研究方法を獲得し、知識を有機的に総合し、論文を作成することができる。 C-2-2.(独創性)新たな視点から問題提起を行い、それを解決するための方法を提示しながら、論文を作成することができる。 B-3(哲学コース固有の課題)過去の思想やその表現に対する批判的考察を通じて、人間存在を深く理解し、それを説明できる。								卒業論文
<哲学・哲学史>	C-1-1.(文献分析力)本コース5つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。 C-1-2.(研究方法)本コース5つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、必要な史料や文献を収集できる。 C-1-3.(表現力)学問的な討論の場で、他者の意見を理解するとともに、自分の意見を明確に表現し、有効なコミュニケーションを取ることができる。 B-2.(専門分野の知識と理解)本コース5つの専門分野の諸領域のそれぞれの基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究方法を身に付け、それらを説明できる。 C-1-4.(外国語運用能力)外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。			哲学演習Ⅰ～ⅩⅢ(哲学の主要なトピックスと方法を、テキストの講読によって学ぶ演習)、近現代哲学演習Ⅰ～ⅩⅢ(学外の講師による集中講義)、教父中世哲学演習Ⅰ～Ⅸ(中世のキリスト教哲学を、テキストの講読を通じて学ぶ演習)、古代哲学演習Ⅰ～Ⅻ(古代ギリシャの哲学を、テキストの講読を通じて学ぶ演習)、英米哲学演習Ⅰ～Ⅻ(主に英語圏の分析哲学を、テキストの講読等を通じて学ぶ演習)					哲学講義Ⅰ～Ⅷ(哲学の主要なトピックスと方法を学ぶ基本講義)、古代哲学講義Ⅰ～Ⅷ(古代ギリシャの哲学(プラトンやアリストテレスの哲学)に焦点を当てる講義)、教父中世哲学講義Ⅰ～Ⅳ(中世のキリスト教哲学を主題とする講義)、哲学史講義Ⅰ～ⅩⅡ(西洋哲学の歴史を読み解く基本講義)、英米哲学講義Ⅰ～Ⅷ(主に英語圏の分析哲学に焦点を当てる講義)
<倫理学>	C-1-1.(文献分析力)本コース5つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。 C-1-2.(研究方法)本コース5つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、必要な史料や文献を収集できる。 C-1-3.(表現力)学問的な討論の場で、他者の意見を理解するとともに、自分の意見を明確に表現し、有効なコミュニケーションを取ることができる。 B-2.(専門分野の知識と理解)本コース5つの専門分野の諸領域のそれぞれの基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究方法を身に付け、それらを説明できる。 C-1-4.(外国語運用能力)外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。								<共通>のギリシア語、ラテン語、英語、ドイツ語、フランス語の中から3単位選択
<インド哲学史>	C-1-1.(文献分析力)本コース5つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。 C-1-2.(研究方法)本コース5つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、必要な史料や文献を収集できる。 C-1-3.(表現力)学問的な討論の場で、他者の意見を理解するとともに、自分の意見を明確に表現し、有効なコミュニケーションを取ることができる。 B-2.(専門分野の知識と理解)本コース5つの専門分野の諸領域のそれぞれの基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究方法を身に付け、それらを説明できる。 C-1-4.(外国語運用能力)外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。								日本倫理思想演習Ⅰ～Ⅱ(研究の進め方や論文の書き方を身に付けるための演習)
<中国哲学史>	C-1-1.(文献分析力)本コース5つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。 C-1-2.(研究方法)本コース5つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、必要な史料や文献を収集できる。 C-1-3.(表現力)学問的な討論の場で、他者の意見を理解するとともに、自分の意見を明確に表現し、有効なコミュニケーションを取ることができる。 B-2.(専門分野の知識と理解)本コース5つの専門分野の諸領域のそれぞれの基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究方法を身に付け、それらを説明できる。 C-1-4.(外国語運用能力)外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。								倫理学基礎論演習Ⅰ～Ⅷ(古代～近代の倫理学のテキストを講読する演習)、現代倫理思想演習Ⅰ～Ⅳ(現代倫理学の諸議論を検討する演習)、日本倫理思想演習Ⅲ～Ⅳ(日本倫理思想の古典的テキストを講読する演習)
<美学・美術史>	C-1-1.(文献分析力)本コース5つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。 C-1-2.(研究方法)本コース5つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、必要な史料や文献を収集できる。 C-1-3.(表現力)学問的な討論の場で、他者の意見を理解するとともに、自分の意見を明確に表現し、有効なコミュニケーションを取ることができる。 B-2.(専門分野の知識と理解)本コース5つの専門分野の諸領域のそれぞれの基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究方法を身に付け、それらを説明できる。 C-1-4.(外国語運用能力)外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。								倫理学基礎論講義Ⅰ(倫理学の講義)、倫理学基礎論講義Ⅱ(メタ倫理学の基礎講義)
<国際コース共通>	B-4.(国際コース固有の課題)英語により日本の人文学を学び、外国語による思考力を鍛え、日本社会や国際社会の諸問題を表現することができる。								倫理学基礎論講義Ⅲ～Ⅷ(倫理思想の諸相や各種倫理学理論についての講義)、現代倫理思想講義Ⅰ～Ⅷ(メタ倫理学および応用倫理学についての講義)、日本倫理思想講義Ⅰ～Ⅳ(日本倫理思想の諸相についての講義)
<共通>									<共通>のギリシア語、ラテン語、英語、ドイツ語、フランス語の中から3単位選択
<共通>									インド文献学基礎演習Ⅰ～Ⅳ(インド古典学に関する講読演習)、インド哲学史演習Ⅰ～Ⅳ(インド哲学史に関する講読演習)、仏教学演習Ⅰ～Ⅳ(仏教学に関する講読演習)
<共通>									アンア宗教思想講義Ⅰ～Ⅱ・Ⅴ～Ⅵ(インドを中心とするアジア思想に関する講義)、インド哲学史講義Ⅰ～Ⅱ(インドを中心とする哲学史に関する講義)、仏教史講義Ⅰ～Ⅱ(南アジアを中心とする仏教史に関する講義)
<共通>									<共通>の古典語(サンスクリット)1単位は2年前期の必修科目。<共通>の英語、ドイツ語、フランス語、中国語の中から2単位選択
<共通>									中国文献学基礎演習Ⅰ～Ⅱ(中国古代、中世、近世、近代の文献学についての基礎演習)、中国哲学史演習Ⅰ～Ⅷ(中国古代理、中世、近世、近代の哲学史についての演習)
<共通>									アジア宗教思想講義Ⅲ～Ⅳ・Ⅶ～Ⅷ(中国を中心とする東アジアの宗教思想についての講義)、中国哲学史講義Ⅰ～Ⅵ(中国古代理、中世、近世、近代の哲学史についての講義)
<共通>									<共通>の英語・中国・朝鮮語の中から3単位選択
<共通>									現代芸術論演習Ⅰ～Ⅷ(現代における芸術作品や芸術論に関する討論・文献講読)、西洋美術史演習Ⅰ～Ⅷ(西洋美術とその歴史に関する外国語文献講読)、美学芸術学演習Ⅰ～Ⅷ(美学・芸術哲学に関する外国語文献講読)、東洋美術史演習Ⅰ～Ⅷ(東アジアの美術とその歴史に関する原典講読)、美学美術史実習Ⅰ～Ⅳ(博物館学芸員資格取得に必要な作品調査・フィールドワーク、美術館における作業を行う実習)
<共通>									現代芸術論講義Ⅰ～Ⅷ(現代における芸術作品や芸術論に関する講義)、西洋美術史講義Ⅰ～Ⅷ(西洋美術とその歴史に関する講義)、美学芸術学講義Ⅰ～Ⅷ(美学および芸術哲学、芸術諸学に関する講義)、東洋美術史講義Ⅰ～Ⅷ(東アジアの美術とその歴史に関する講義)、芸術文化論Ⅰ～ⅩⅩ(学外講師による美学、芸術作品、表象文化論に関する講義)
<共通>									<共通>の英語、ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語の中から3単位選択
<共通>									国際コースの学生はInternational HumanitiesⅠ～Ⅹ(英語による日本学の授業)各2単位を8単位修得する。この8単位のうち4単位までは人文学課題探求演習Ⅰ～Ⅲに代えて修得することができる。また、国際コースの学生は専門80単位のうち40単位以上をF科目(外国語により実施される科目)またはF/J科目(授業の一部で外国語を用いて実施される科目)で修得する(F科目、F/J科目であるかどうかは各授業のシラバスに表示される)。卒業論文(10単位)は外国語で作成された場合、F科目とする。また、外国語文献資料や外国語による研究成果を幅広く参照して作成された卒業論文の単位は、所定の申請書を提出した上でF/J科目に認定されることがある。
<共通>									International HumanitiesⅠ～Ⅱ: Introduction to Japanese History,Ⅲ～Ⅳ: Introduction to Japanese Literature and Language,Ⅴ～Ⅵ: Introduction to Japanese Art and Visual Culture,Ⅶ～Ⅷ: Introduction to Japanese Religions and Philosophy,Ⅸ～Ⅹ: Analyzing International Scholarship on Japan)
<共通>									International HumanitiesⅠ～Ⅱ(長期の留学、海外での活動を単位として認める授業)
<共通>	B-2.(専門分野の知識と理解)本コース5つの専門分野の諸領域のそれぞれの基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究方法を身に付け、それらを説明できる。 B-1.(人文学の広範な知識と理解)人文学全般の多様な専門分野の基礎知識を身に付け、人文学固有の思考や方法を説明できる。								博物館に関する科目、図書館に関する科目、地域福祉の比較社会学、コミュニティの構造、情報機器操作入門、西洋古典学講義Ⅰ～Ⅳ、ジャーナリズム論Ⅰ～Ⅱ、現代史入門Ⅰ～Ⅱ
<共通>									人文学基礎Ⅰ
<共通>									人文学基礎Ⅱ
<共通>									人文学Ⅰ～Ⅳ
<共通>									International HumanitiesⅠ～Ⅱ: Introduction to Japanese History,Ⅲ～Ⅳ: Introduction to Japanese Literature and Language,Ⅴ～Ⅵ: Introduction to Japanese Art and Visual Culture,Ⅶ～Ⅷ: Introduction to Japanese Religions and Philosophy,Ⅸ～Ⅹ: Analyzing International Scholarship on Japan)
<共通>									<古典語>ギリシア語Ⅰ～Ⅱ、ラテン語Ⅰ～Ⅱ、サンスクリットⅠ～Ⅱ、漢文Ⅰ～Ⅱ <外国語>英語Ⅰ～Ⅳ、ドイツ語初歩Ⅰ～Ⅱ、フランス語初歩Ⅰ～Ⅱ、中国語初歩Ⅰ～Ⅱ、朝鮮語初歩Ⅰ～Ⅱ、ドイツ語Ⅰ～Ⅳ、フランス語Ⅰ～Ⅳ、中国語Ⅰ～Ⅳ、朝鮮語Ⅰ～Ⅳ、アラビア語Ⅰ～Ⅱ
<共通>									言語文化科目(Intensive English、学術英語、専門英語、初修外国語) 国際コースの学生は言語文化科目は17単位が必修(国際コース以外の学生は12単位)。17単位のうち第一外国語(英語)は12単位、第二外国語は5単位が必修。
<共通>									文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、総合科目
<共通>									サイバーセキュリティ基礎論
<共通>									高年次基幹教育科目
<共通>									課題協学科目、基幹教育セミナー、健康スポーツ科
<共通>									A-1.(主体的な学び)深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。 A-2.(協働)多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることができる。